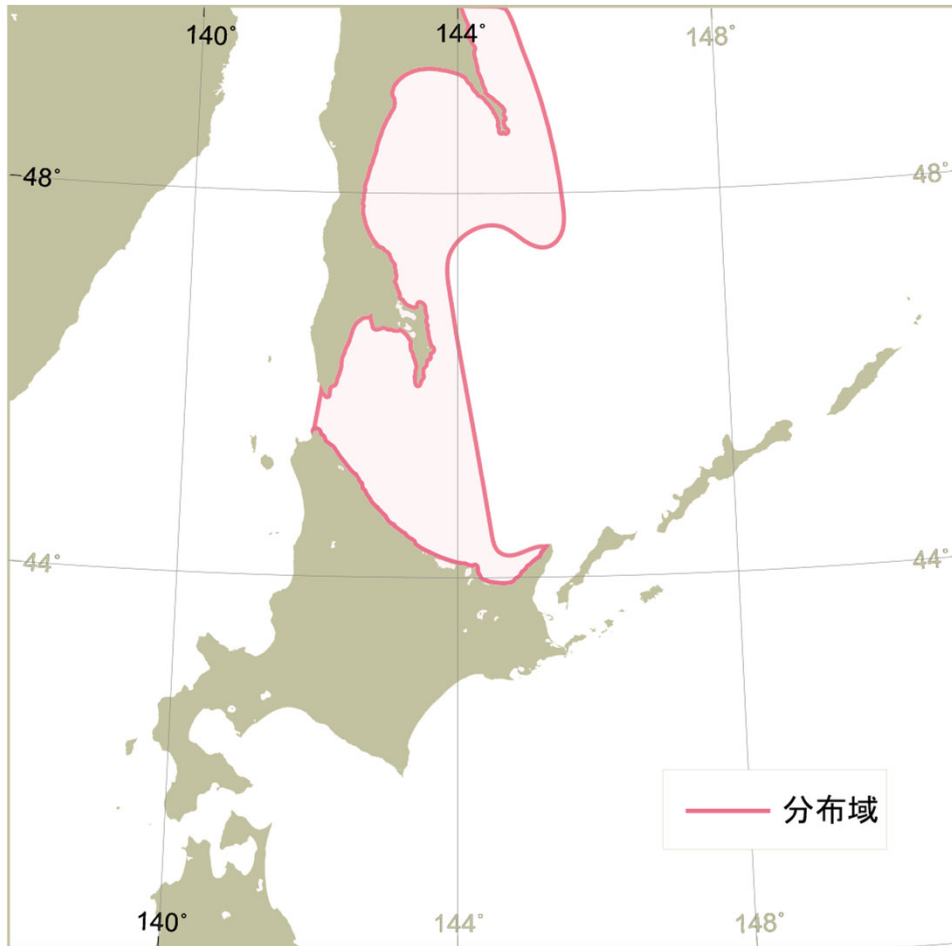




スケトウダラオホーツク海南部 令和7年度資源評価結果

生物学的特性等



- ロシアとの跨り資源
日本水域は分布の南端
- 現在は日本水域でほとんど再生産しておらず、他の海域で発生した集団からの一時的な来遊群が資源の主体
- 加入起源や系群構造など生態的に不明な点が多い
- 海洋環境や来遊状況により資源豊度は大きく変化する可能性が高く、推定困難

資源評価の方法（昨年度）

2024年漁期（4月～翌年3月）までの漁獲データ
沖合底びき網漁業（沖底）の努力量と漁獲量



スケトウダラ狙い操業※の1網あたり漁獲量（CPUE：
資源量指標値） ※1日の漁獲量のうちスケトウダラが50%を超える日



資源管理基本方針で定められた「**維持または回復させるべき目標となる資源量指標値（3.41トン/網）**」を基準に
現状評価*

* 本資源は跨がり資源であり、新漁業法に則したMSYに基づく管理基準値の設定は困難であるため

資源評価の方法（今年度）

2024年漁期（4月～翌年3月）までの漁獲データ
沖合底びき網漁業（沖底）の努力量と漁獲量



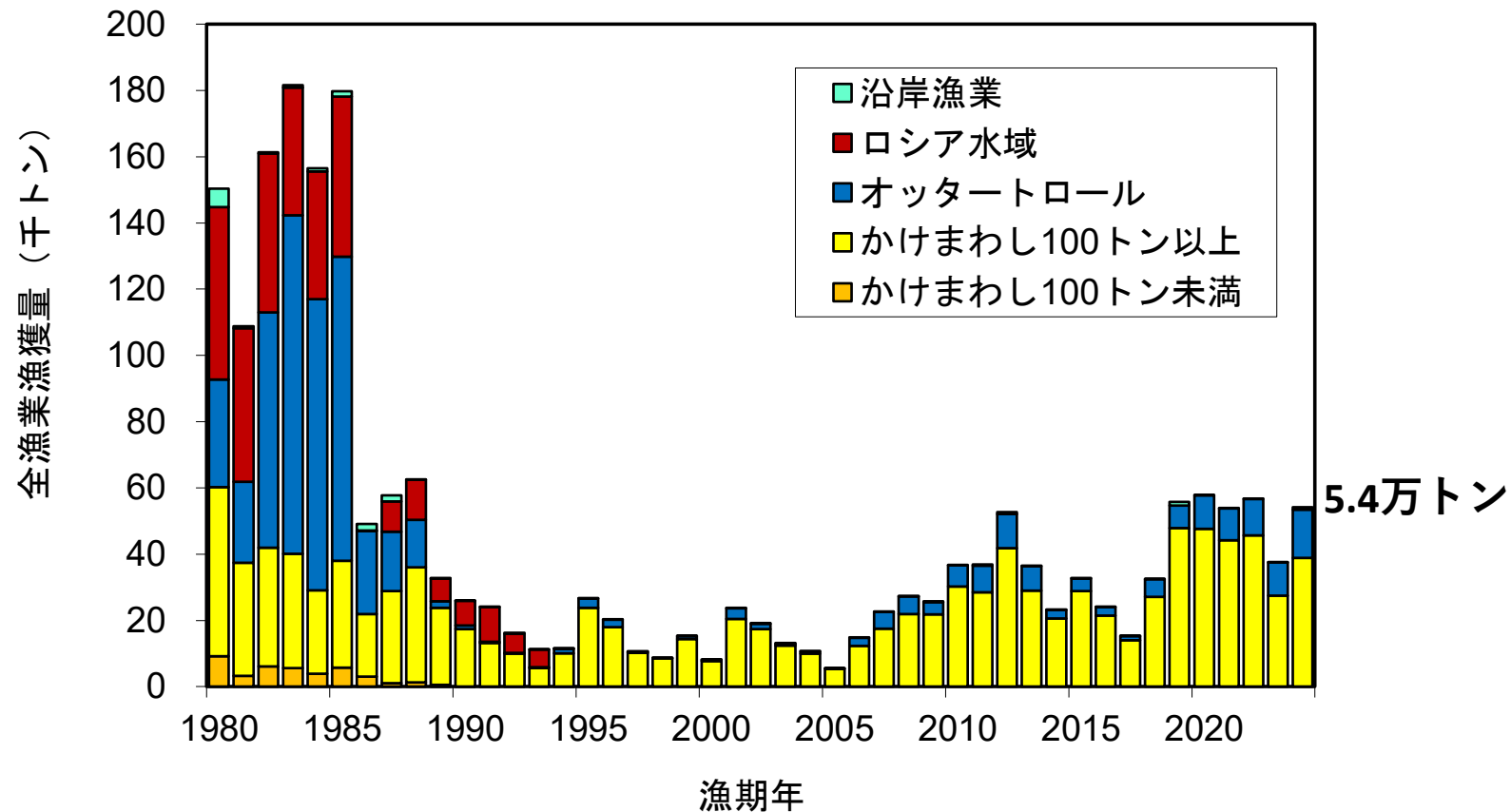
スケトウダラ狙い操業※の1網あたり漁獲量（CPUE：
資源量指標値） ※1日の漁獲量のうちスケトウダラが50%を超える日



資源管理基本方針で定められる「**維持または回復させるべき目標**」の検討のため提案した、**資源量指標値の平均値（4.40トン/網）**を基準に現状評価*

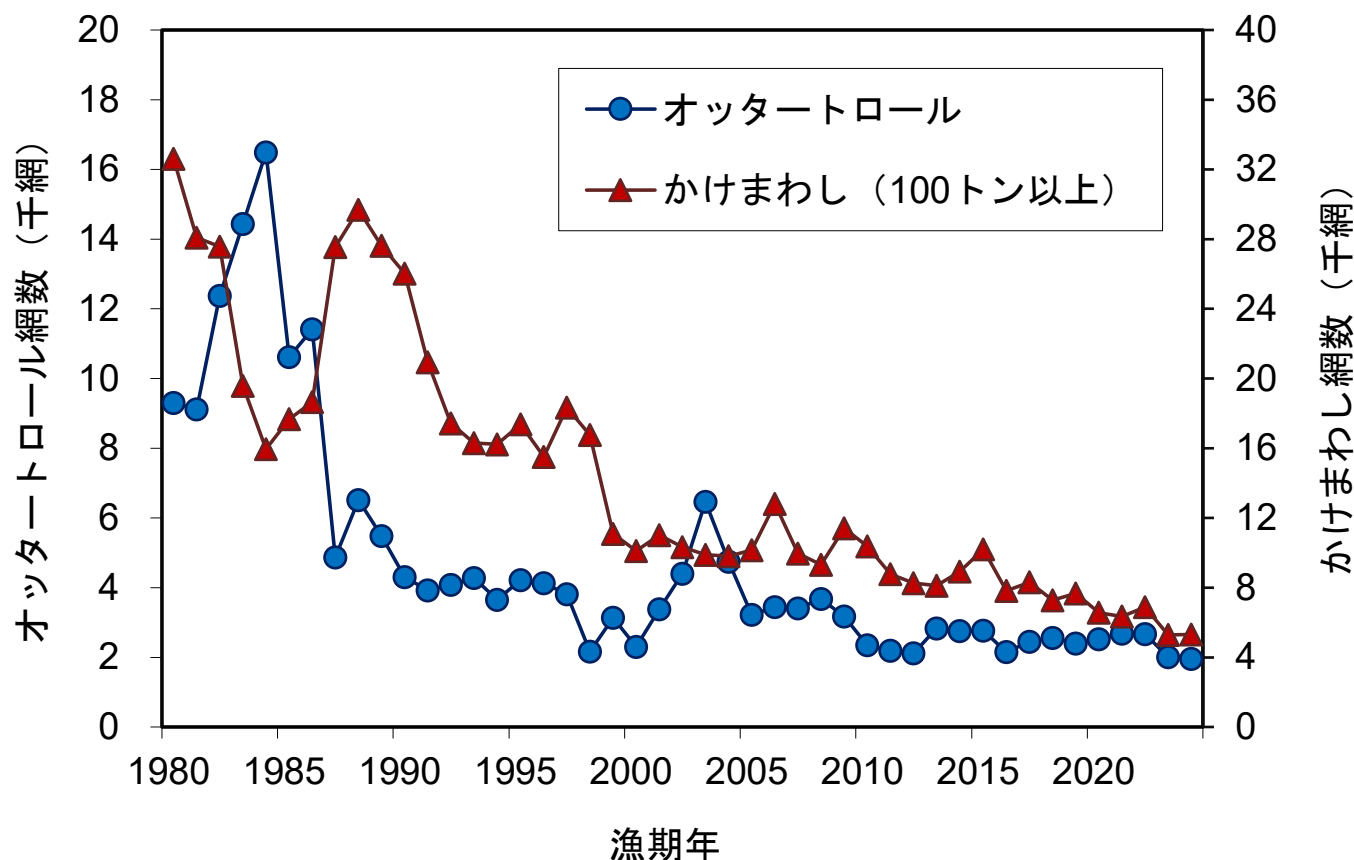
* 本資源は跨がり資源であり、新漁業法に則したMSYに基づく管理基準値の設定は困難であるため

漁獲量の推移



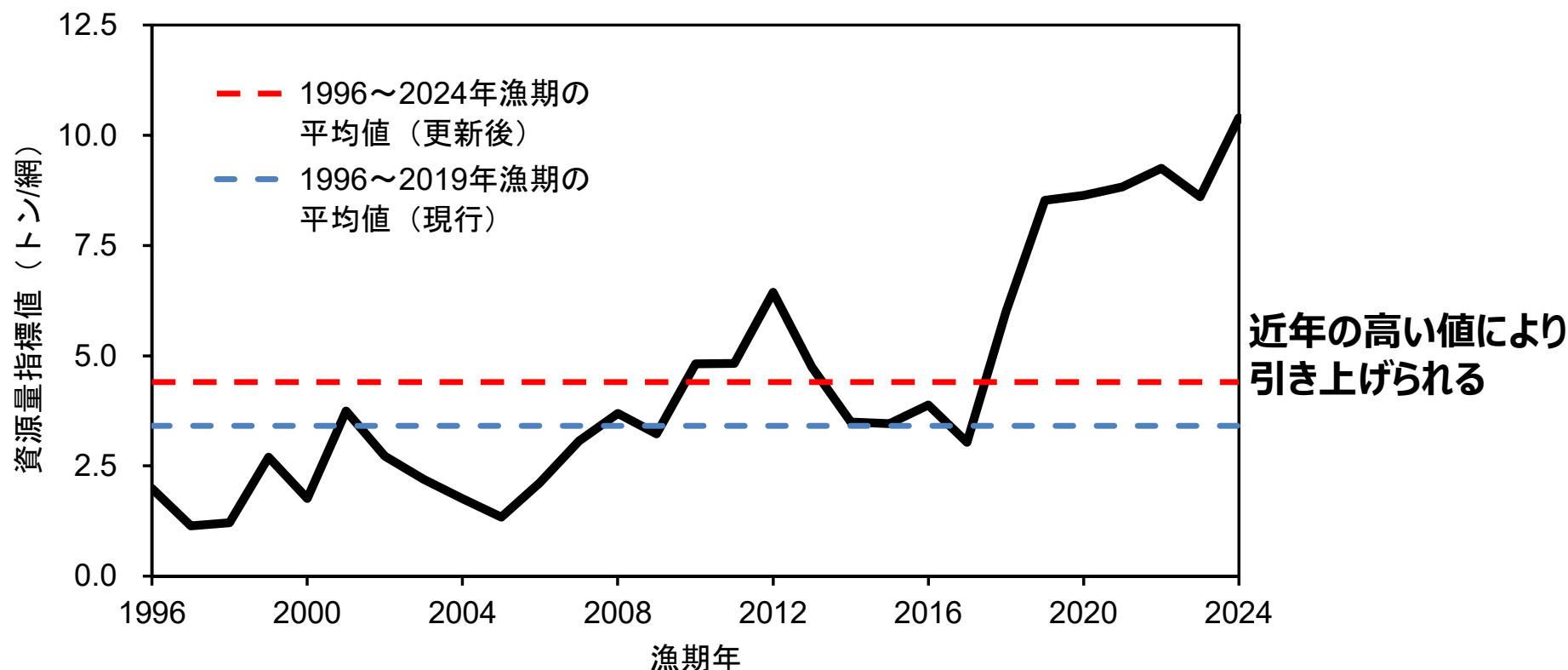
- 漁期年(4～3月)の漁獲量は、80年代前半まで15万トン前後で推移したが、ロシア規制強化等で86年漁期に大きく減少、1990～2009年漁期は3万トン以下で推移
- 2006年漁期から増加したが、2013年漁期以降は減少
- 2018年漁期以降は再び増加し、2024年漁期は5.4万トン

努力量の推移（沖底の有漁網数）



- 沖底許可隻数は、86年の80隻から2024年は13隻に減少
- オッタートロールでは、84年漁期の1.6万網から、98年漁期以降は0.2万～0.3万網前後へ減少
- かけまわしでは、80年代の1.6万～3.3万網から減少し、99年漁期以降は1.0万網前後で推移、2024年漁期は0.5万網

管理基準値の更新について



- 資源量指標値が来遊量を反映した指標であると考え、1996～2024年漁期の平均値（4.40 トン/網）を「維持または回復させるべき目標」の検討のため提案
- 2024年漁期の資源量指標値は 10.4トン/網 であり、この基準を上回った
- 資源量指標値は近年高い値で推移、直近5漁期年の資源の動向は「増加」と評価した

評価と提案のまとめ

- 本資源の資源量指標値は日本水域における情報に限られ、「跨り資源」である本資源全体の動向を捉えることができないことから、「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。
- 資源管理方針に関する検討のため、資源量指標値（沖合底びき網漁業のかけまわし漁法による、スケトウダラ狙い操業（1日の総漁獲量に占めるスケトウダラの割合が50%を超える日の操業）の単位努力量当たり漁獲量（CPUE））の1996～2024年漁期の平均値（4.40トン/網）を「維持または回復させるべき目標」として提案する。
- 2024年漁期の資源量指標値は 10.4トン/網 であり、この基準を上回った。
- 直近5漁期年の資源の動向は「増加」と評価した。



スケトウダラ（オホーツク海南部）①

スケトウダラは北太平洋に広く生息し、本評価群はこのうちオホーツク海南部に分布する群である。本資源の漁獲量等は漁期年（4月～翌年3月）の数値を示す。

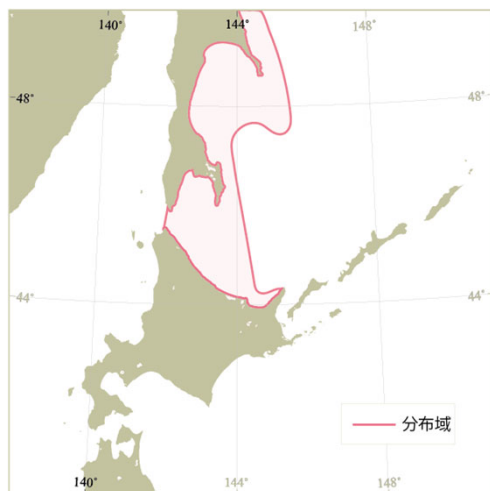
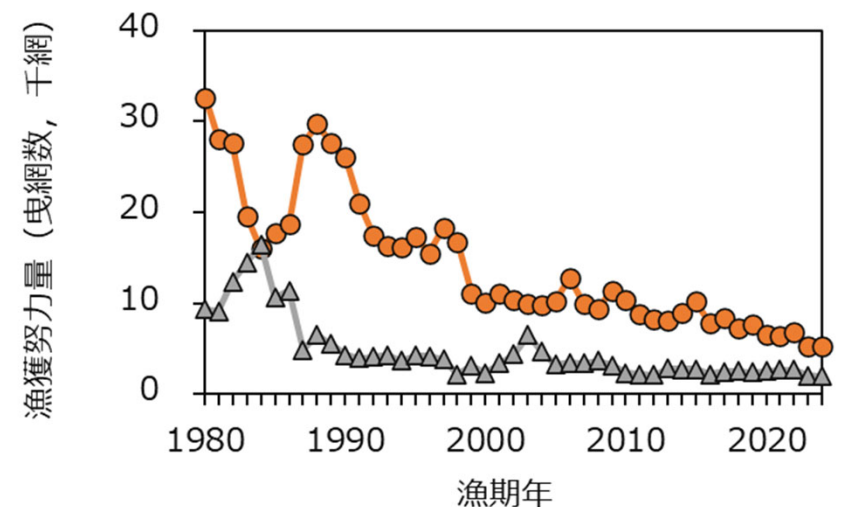


図1 分布域

本資源は日本水域とロシア水域に連続的に分布し、成長の一時期に日本水域に来遊する「跨り資源」である。



● かけまわし (100トン以上) ▲ オッタートロール

図3 漁獲努力量の推移

日本水域での漁獲の大半は沖合底びき網漁業による。減船の結果、許可隻数は1986年漁期の80隻から2024年漁期は13隻まで減少した。オッタートロール・かけまわし漁法のいずれにおいても、漁獲努力量は過去と比較して抑制されている。

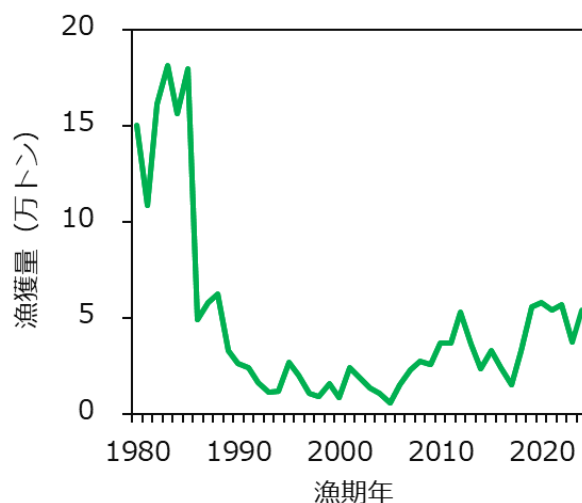
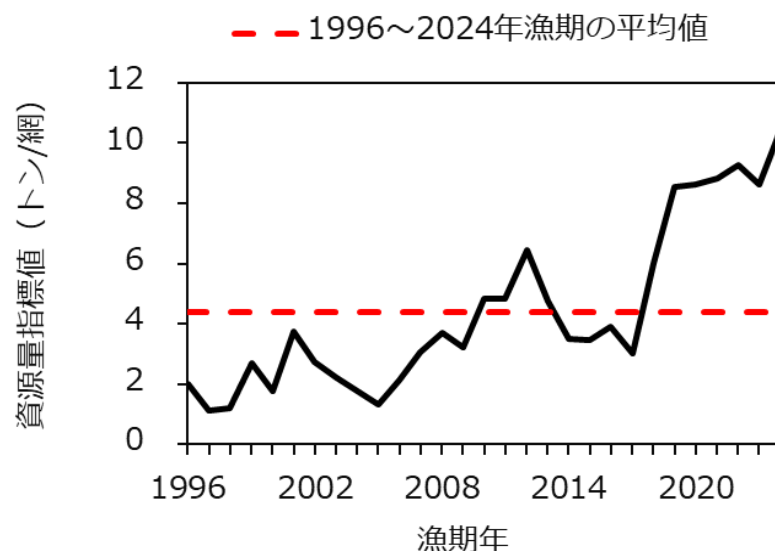


図2 漁獲量の推移

本資源の我が国による漁獲量は、ソビエト連邦（現ロシア連邦）の漁獲規制強化等で、1986年漁期に大きく減少した。近年の漁獲量は、ロシア水域からの来遊量に左右されると考えられ、2010年漁期以降は2万～5万トン付近で推移している。2024年漁期は5.4万トンであった。

スケトウダラ（オホーツク海南部）②



本資源の管理基準値等の検討について

本資源の資源量指標値は日本水域における情報に限られ、「跨り資源」である本資源全体の動向を捉えることができないことから、「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。

現行の漁獲シナリオでは、我が国の漁船による漁獲の状況等を踏まえて、我が国漁船の操業水域に分布する資源の最適利用が図られるよう漁獲を管理するとされている。

図4 資源量指標値とその平均値

資源管理方針に関する検討のため、沖合底びき網漁業のかけまわし漁法による、スケトウダラ狙い操業（1日の総漁獲量に占めるスケトウダラの割合が50%を超える日の操業）の単位努力量当たり漁獲量（CPUE）を資源量指標値とし、1996～2024年漁期の平均値（4.40トン/網）を評価の基準にすることを提案する。2024年漁期の資源量指標値（10.4トン/網）はこの基準を上回った。